

平成30年度 六つ川西小学校 学校評価 教職員アンケート集計 提出20名

評価結果		A：十分 B：おおむね十分 C：やや不十分 D：不十分				考察	教職員から寄せられたコメント			
小 中 一 貫 教 育 の 取 組		A	B	C	D					
六つ川中 ブロック		：六つ川中学校・六つ川小学校・六つ川台小学校・六つ川西小学校					<ul style="list-style-type: none"> <li>MBC、意思疎通は図れたが、具体的な動きがあまりなかった。</li> <li>MBC、指導方法の改善にまでは至っていない。</li> <li>実態として子ども達が自ら考え行動できていない。改善が必要。</li> </ul>			
9年間で育てる子ども像		六つ川中学校が掲げている「自立のための基礎力」を本校でも6年間の中で育てていきたい。								
自校の 具体的取組		①学習活動、学校行事、特別活動など、様々な機会をとらえて、子どもたちが自ら考えて行動できるよう支援していく。				2	14	4	0	自ら考え行動する児童の実態がまだまだ見えない。高学年を中心に考え行動する児童を育みたい。
		②確かな学力を育成していくために、ブロック内で課題を共有して、指導方法の改善を常に図っていく。				2	12	6	0	ブロックの情報共有は図れても、それらを各学校で実践するに至らない。
重点取組分野	取組目標	具体的取組				A	B	C	D	
確かな学力	幅広い知識を身に付けるとともに、学んだことを基に、「柔軟に思考したり判断したり表現したりする力」を育てます。	①基礎基本の定着を目指し、朝のスキルタイムや読み聞かせ等の時間を有効に活用する。				9	10	1	0	スキルタイムを有効活用できている。今後も継続していく必要がある。
		②日々の授業において、学習活動を自分事として捉えるとともに、自らの考えをしっかりと表現する力を育てる。				2	14	4	0	「表現力」が十分に育っているとは言えない。全校をあげ、取り組みを強化する必要がある。
担当	学力向上	③特別に支援が必要な子どもたちの教育的ニーズを把握するとともに、校内体制を整えて支援する。				2	16	2	0	特別支援の校内体制をさらに整えていく必要がある。
豊かな心	互いに協力し合う活動を通して、相手の立場や気持ちを思いやる心や態度を育てるとともに、自己肯定感を高めて自分を大切にすることを育てる。	①縦割り活動（きらきら活動）を充実させ、異年令同士のつながりを築くようにする。				10	10	0	0	縦割り活動は本校の特色の一つである。高学年を中心に、豊かな心を育むのに有効な手立てである。
		②「地域清掃」や「歌いっばい活動」を行い、学校や地域を大切にしたり、豊かな感性や情操を育てる。				4	13	3	0	子ども達の豊かな感性、情操を育むには、適した手立てである。
担当	道徳	③道徳の時間の見直しと充実を図り、自他を大切にできる心や態度を育てる授業を展開する。				0	13	7	0	課題があると言える。道徳の教科化に向けて、さらに研究と実践を進めていく必要がある。
健やかな体	心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身につけるとともに、自他の生命を大切にできるようにする。	①「六つ西体力アップタイム」を充実させ、短なわ・持久走に継続的に取り組めるようにする。				11	9	1	0	体力アップは全校に浸透している。継続することにより、児童の健康意識の向上に繋がると言える。
		②養護教諭と連携し、「歯磨きタイム」や「歯の衛生週間」などを通して歯磨き指導を徹底する。				5	11	3	0	給食後の歯磨きは習慣化されている。児童の歯の健康に十分に繋がっていると言える。
担当	体育	③長縄に継続的に取り組み、年間を通して運動に親しむようにする。				7	11	2	0	長縄大会が催されていることもあり、全校的に熱心に取り組む様子が見られる。
児童生徒指導	きまりを守り、友達と協力して学校生活を送ろうとする意識を高める。	①指導における学校としての「スタンダード」を確立し、全職員共通理解のもとで、指導する。				2	12	5	1	学校全体で統一したルールのもと、指導を行う方向ではあるが、実践においては教師により温度差がある。
		②「あいさつ、清掃、感謝、けじめ」を大切に、様々な場面で、取り上げ指導する。				0	13	5	2	浸透しているとは言えない。特にあいさつに関して、本校児童に課題があると言える。
担当	人権・児童指導	③月ごとの生活目標に重点をおき、目標に対する意識を高める。				1	14	3	0	毎週の朝会で司会の教師より発信があり、月目標を意識できるようになってきている。
地域連携	地域を愛し、地域に愛される子どもたちを育てる。地域から見える学校づくりを行う。	①地域のお祭りに積極的に参加する。				0	13	6	1	積極的とは言えない。地域と連携する必要がある。
		②学校便りや学校ホームページから、学校での取り組みを発信する。				6	13	0	1	更新頻度も高まり、発信力は向上してきた。
担当	地域連携	③「六つ西懇話会」「MBC学校運営協議会」「全市一斉パトロール」等で児童の様子を発信する。				3	13	2	2	教師によって温度差がある。担当教師に偏りがち。
いじめへの対応	子どもたち一人一人が安心して学校生活を送り、受け入れられていると実感できる環境を全職員で作上げていく。また、道徳の時間や人権教育の充実を図る。	④PTA見守り隊と連携し、児童の安全を図る。				0	13	6	1	連携できているとは言えない。具体的手立てを打ち出したい。
		①毎月開催する「いじめ防止対策会議」において、各担任が「気になる児童」を取り上げて全職員で共通理解を図る。				8	11	2	0	「いじめ防止対策会議」を定期的に行うことで職員間の情報共有、共通理解がなされている。
担当	いじめ防止対策委員会	②定期的な「いじめアンケート」を行い、児童と担任、専任との面談につなげる。時には、管理職や保護者も同席する。				6	13	2	0	いじめアンケートが生きていると言える。
人材育成・ 組織運営	全教職員が学び続け、力量を向上することができるよう、また、よりよい改善がしていけるように、組織を形成する。	③いじめが発覚した際は、すぐに校長が「いじめ対応委員会」を開催し、必要に応じてSSW、市教委にも入っていただき解決に全力を傾ける。				5	13	1	1	いじめ発覚の際に、概ね迅速に対応がなされていると言える。関係各所とさらなる連携強化を図る。
		①職員会議などが効率よく進行できるように組織の見直しや修正を積極的に行う。				3	14	2	1	組織の改善、見直しをさらに図っていく。
担当	主幹教諭 メンターチーム	②初任者の育成に全職員が関わって、実践を伴うメンター研修を月1回実施する。				2	17	0	1	メンター研修はおおむね効果的であると言える。
		③校内研修を計画的に実施し、児童指導・人権・いじめの早期発見や危機管理能力など、教師の力量を高めることができるよう努める。				0	16	2	1	校内研修をさらに充実させる必要があると言える。